



2019(令和元)年10月18日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

大学の資料室と山陽学園へのレファレンス - 学園資料室の今後 -

山陽学園大学・山陽学園短期大学

事務職員 戸嶋美江

山陽学園大学・山陽学園短期大学図書館の第二書庫3階に、資料室があることをご存知でしょうか。

ここにある資料は、大学の開学に合わせて「上代淑研究会」を発足させたことに因み、その参考資料として、山陽女子高等学校から資料を譲り受けたものです。これらを保管するために、資料室が設けられました。

この中には学園誌の『みさお』や当時の新聞のコピー、上代淑先生の書簡、写真、当時の教科書、講演のテープ等、学園に関するいろいろな資料が保存されています。

上代淑研究会は、私学振興財団の「特色ある教育研究の推進」事業に採択され、助成金で研究成果をまとめた『上代淑研究』を創刊号(1996)から第7巻(2002)まで発行しました。これに掲載された論文は、国立情報学研究所のCiNii Articlesや、図書館のホームページから検索できますが、実際の論文は図書館への複写依頼が必要になります。過去においても様々な研究者から複写依頼が寄せられました。海外からもマサチューセッツ州のスミスカレッジより複写依頼がありました。今日はインターネットという便利な手段があるため、海外でも本学の研究成果を探すことができます。

資料室の資料を実際にご覧になりたいという連絡もありました。一番の利用者は齊藤育子学長です。上代淑を研究テーマの一つにされていたため、学長になられる前から、よく資料室をご利用されていました。職員よりも資料をよくご存じで、棚のどの辺りにあったか、どのような状態であったか等、きちんと把握されており、こちらがびっくりさせられる

ことも多くありました。

齊藤育子学長の研究成果は『祈りの教育者上代淑 示範による人間陶冶』(2015)として出版されています。

当時ケンブリッジ大学東洋学部研究員であったマアラ・パテッシオ(Mara Patessio)さんも利用者のおひとりです。明治時代の女子教育について研究されており、2006年に来日された折に資料室を訪れ、数日間利用されました。マアラさんとはその後も交流が続き、故太田健一先生が『或る明治女学生日記 岡山・山陽女学校生「石原登女子」の記録』(2007)を出版された時にはお祝いの言葉を、また2011年の東日本大震災後にはお見舞いのメールをいただきました。

当時の調査をまとめたマアラさんの著書 *Women and Public Life in Early Meiji Japan: The Development of the Feminist Movement* (2011)の中には上代淑と山陽学園のことも記載されています。これらは図書館で所蔵していますので、ご覧ください。

また、2013年にNHK大河ドラマ「八重の桜」が放送されている頃、ヒロインである新島八重が山陽英和女学校で講演をしていたという記録が見つかり、テレビや新聞等で報道されました。その後、掲載されていた学園誌の『みさお』のコピー依頼や、実物を見たいという希望者が来られました。紙媒体のもろさはコピーをとるごとに、ページをめくるとに傷みが出ることです。アーカイブを作成し、インターネットで発信できれば、劣化を防ぐことができます。今後は劣化に対する補修や修復等も必要に



「キリスト新聞社」発行

なっていくでしょう。

直接お越しになる利用者以外にもメールやお手紙で山陽学園や上代家に関する問い合わせもいただきました。その中からいくつかご紹介しましょう。

青木要吉に関する資料がありますか

吾妻テクノスの創業者である「青木要吉」は山陽高等女学校の時代に教師(講師)をしていたと言われていますが、足跡が分かりましたら教えてくださいという依頼がありました。

吾妻テクノスは、大正8年に青木要吉が創業した株式会社吾妻商会が元となり、2019年に創立100周年を迎えるそうです。その記念誌を制作する予定ですが、戦争で自宅も会社も消失してしまい、資料が全く無くて困っているという話でした。山陽英和女学校の4代目校長であったことを連絡したところ、開学当時の写真等の資料を希望されたため、『山陽学園百年誌(1986/10)』を送付しました。初めて見る図書だったらしく、大変喜んでくださいました。

上代淑先生と上代知新牧師のお墓の写真をお持ちでしょうか

福島県にお住いのキリスト教史研究家の方からの問い合わせでした。須賀川にあった上代知新夫妻の墓は、管理していた勝誓寺の前の住職と教会との行き違いから壊されてしまい、今はありません。現在は貴大学のそばの墓地にある上代知新牧師の墓しか存在しません。写真がありませんかとの話でした。

写真を撮り、お送りしましたが、建立年月日が知りたかったそうです。しかし残念なことに刻まれていませんでした。ご親族の方にもお尋ねしましたが、わかりませんでした。

山陽学園発行と考えられる雑誌の誌名がわかりませんか

東京の医師の方からの問い合わせでした。山陽学園発行と考えられる雑誌の一部を拝見致しました。85周年(昭和47年1月18日)に関するお知らせが掲載されておりました。見たのは30ページで、北島杉野(旧姓:吉岡)の記事です。この雑誌の題名や巻(号)、出版年などをお教えくださいとのことでした。

みさお85周年(昭和47年1月18日)に関するお知らせが掲載されていたということで、雑誌は46年発行だと推測されます。『みさお』は上代淑研究会の

メンバーの手によって、きちんと整理され、配架されていますので、この記事は山陽学園同窓会会報『みさお』第16号の最終ページだとわかりました。今回は無事に回答できましたが、残念なことに『みさお』には欠号があります。資料は時間とともに消滅していきます。紛失された号を一刻も早く見つけ出さなければなりません。

レファレンスが届くと半分心配で、半分楽しみでもありました。このような市井の研究者の方たちから、もしかすると山陽についての新しい発見があるかもしれません。また紛失してしまった資料の手がかりが見つかるかもしれません。想像すると、とても楽しくなりませんか。

山陽学園や上代淑に関するレファレンスは職員の手で解決できるものは少なく、最終的にはいつも山陽の生き字引的存在であった濱田栄夫先生(前副学長)のお手を煩わせてしまいました。濱田先生ありがとうございました。

もっともっと多くの方に山陽学園と上代淑を知ってもらうためには、資料の収集、整理、管理、データ処理が必要です。希望する人の目に触れることのできるアーカイブや、インターネットを使った情報発信を行えば、探している人の元へ届けることができます。もう一つは資料室の統合です。利用者の中には山陽女子高校に行ってから大学図書館の存在を知らされたり、逆に大学図書館から高校の資料室を紹介する場合もありました。一か所で利用できれば効率もよく、随分と便利になるでしょう。

資料室は過去の遺産を未来に引き継ぐ場所だとおっしゃった方がいます。言い得て妙だと思います。山陽の歴史遺産を、淑先生をご存じない方々にも知ってもらえるよう、きちんと提供できる形にし、分散されている資料を一括収集・管理し、展示できる新しい資料室ができるのを待ち望んでいます。

追記:原稿の提出後に、資料のアーカイブ化、新しい資料室の検討が始まったことをお聞きしました。令和という新しい時代に、新しい形で、新たな山陽学園を発信してくださるのを楽しみにしています。